メンテナンス

点検・整備

点検・整備について	P.220
ジャッキアップ	P.221
モータールーム	P.223
寒冷時のメンテナンス	P.226
タイヤ	P.229
ワイパー	P.233
ヒューズ	P.234
電球（バルブ）交換	P.237

清掃・お手入れ

洗車のしかた	P.246
内装のお手入れ	P.250

サービスデータ

点検値／交換油脂類	P.252
車両仕様	P.253
イベントデータレコーダ（EDR）	P.255
車両状態記録機能	P.256

点検・整備について

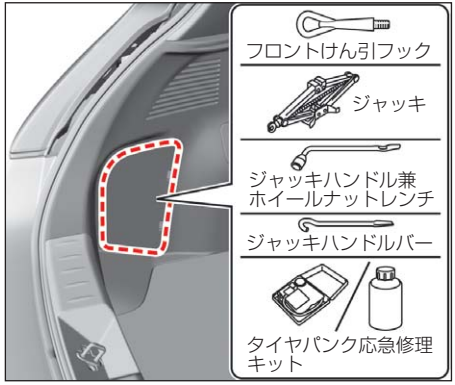
点検・整備の実施、記録、保存は法律で義務づけられています。
点検・整備については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検・整備の種類

- **日常点検**
  走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水もれ、油もれなど）
- **定期点検**
  1 年ごとに実施する点検です。12 か月点検および 24 か月点検があります。
- **その他の点検**
  日産自動車が指定している、新車時の点検や厳しい使われかたをした場合に必要な点検があります。

工具類の格納場所

- 工具、ジャッキ、タイヤパンク応急修理キットは、ラゲッジルーム左側に格納されています。
  ジャッキはゆるめてから取り出します。



⚠ 警告

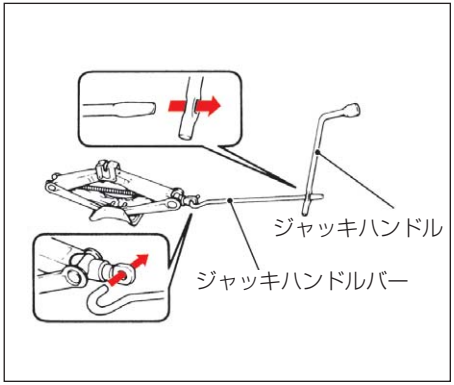
- 充電インジケーターが点灯・点滅しているとき、またはタイマーエアコン表示灯が点滅しているときは、高電圧システムが作動しているため、絶対に整備作業を行わないでください。
- 整備作業を行うときは、車両から充電コネクタを取り外した状態で電源ポジションを一旦 ON にし、再度 OFF にしてから、12V バッテリーの⊖端子を外してください。

知識

- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

ジャッキハンドルのセットのしかた

- ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。



⚠ 注意

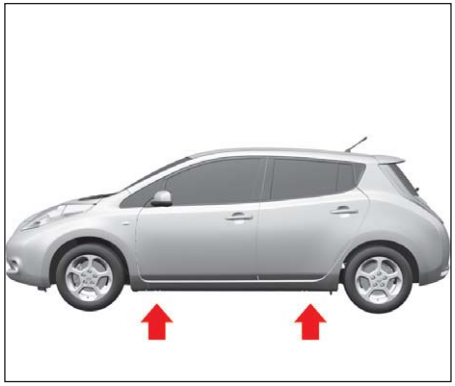
- ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーをしっかり握って回してください。ジャッキハンドルバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込んでください。

ジャッキアップポイント

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。



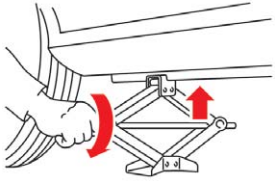
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ジャッキアップのしかた

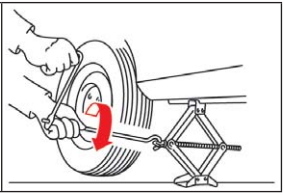
1 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面 (平坦な硬い場所) に停車し、人や荷物を車から降ろします。
➔停車・駐車のしかた…P.90

2 ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。

3 ジャッキを手で回し、ジャッキの溝がジャッキアップポイントの中央に入るまで上げます。



4 ジャッキハンドルを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。



⚠ 注意

- やわらかい地面の上では行わないでください。ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにしてください。

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

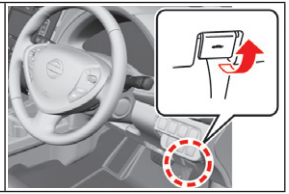
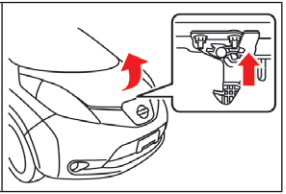
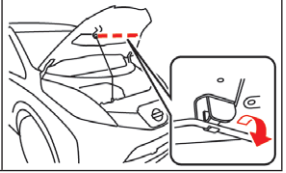
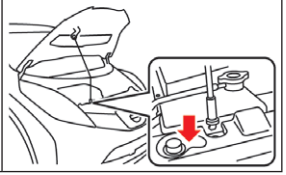
知識

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

モータールーム

モータールームを点検するときは安全な場所に駐車し、
パーキングブレーキをかけた状態でフードを開けます。

フードの開閉

1	運転席右下にあるフードオープナーを引きます。 フードの先端が少し浮き上がります。	
2	フードと充電ポートリッドの間にあるレバーを引き上げながらフードを持ち上げます。	
3	ステーを持ってフックからステーを外します。	
4	ステーの穴に確実に差し込みます。 閉めるときはエンジンフードをゆっくり降ろして20～30cmの高さからエンジンフードを落とし、確実にロックします。	

⚠ 警告

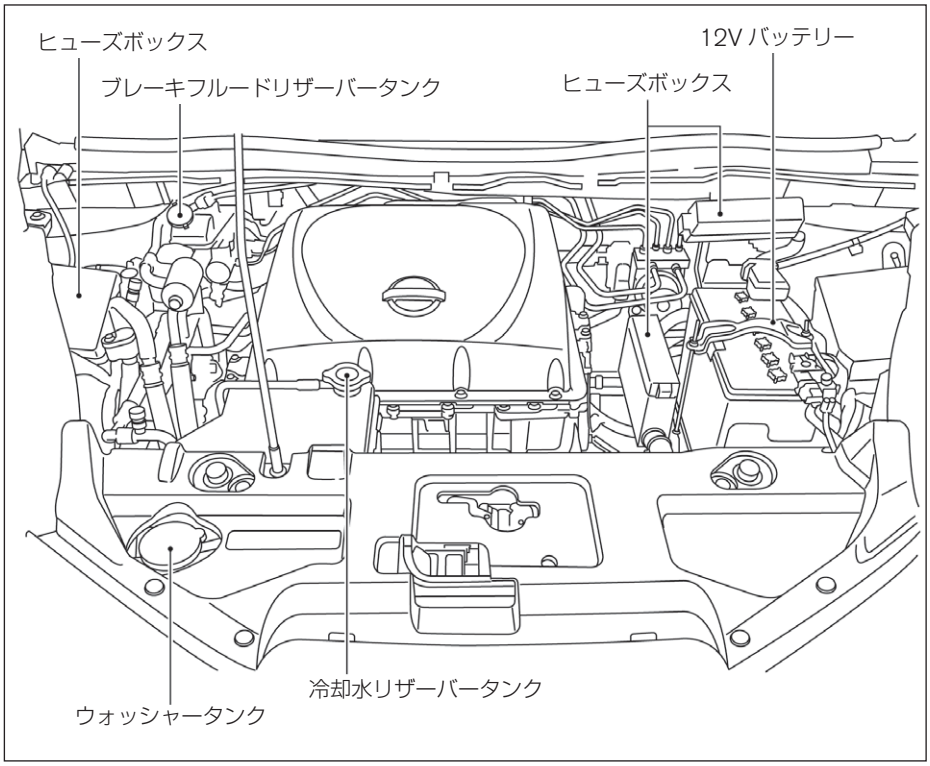
- 走行前に、フードが確実に閉まっていることを、必ず確認してください。ロックされていないと、走行中フードが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 風が強いときに開けると、風にあおられますので、しっかり持ってゆっくり開けてください。
- フードを開けたときは、フードに頭などをぶつけないように注意してください。
- ラジエーターなどの高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- フードを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろしてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

モータールーム内の配置図



⚠ 注意

- 点検や整備に使用した工具や布などは、モータールーム内に置き忘れないように気をつけてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。

アドバイス

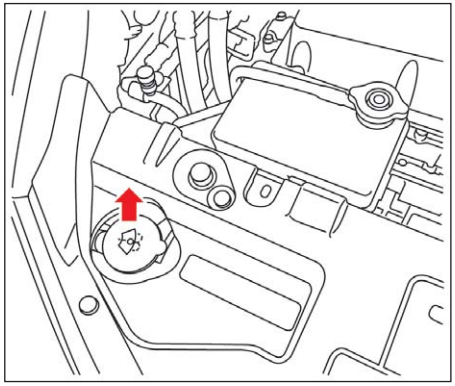
- ワイパーアームを起こしたままフードを開けないでください。フードやワイパーを損傷します。

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

ウォッシャー液の補給

- ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液を補給してください。ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温に応じた希釈割合（濃度）にして補給します。
- ふたの穴を押さえ、引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が点検できます。
- 引き抜いたときにウオッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。
- 日産純正ウインドーウォッシャー液をおすすめします。

➔ウォッシャータンク容量…P.252



⚠ 注意

- ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけないようにしてください。出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

知識

- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、クーラントの濃度を点検してください。

クーラントの濃度	凍結温度
30%	約 -15℃
50%	約 -35℃

- 冷却水を補充・交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント (50% 希釈品) をお使いください。

➔サービスデータ (冷却水)…P.252

アドバイス

- 寒冷地仕様車は工場出荷時に 50% にしてあります。
- 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

車が凍結したら

- 凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐにふき取ってください。

アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

靴の雪を落とす

- 乗車時、靴に付いた雪はよく落としてください。ペダル類の操作時に滑ったり、窓ガラスのくもりの原因となります。

窓ガラスの雪や霜を落とす

- プラスチックの板などを使って、ガラスを傷つけないように落としてください。

足回りの着氷を落とす

- 足回り（ブレーキホース、フェンダー裏側など）に付着した氷塊を、部品を破損しないように注意して取り除いてください。

⚠ 警告

- ルーフに積もった雪は落としてください。窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

滑りやすい路面の走りかた

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。

➔タイヤチェーンについて…P.232

走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。時々確認して雪を取り除いてください。

長時間駐車するとき

- セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。
日常的に点検を行ってください。

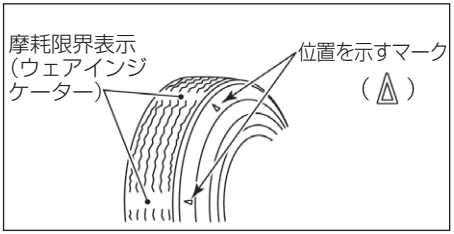
タイヤの点検項目

■タイヤ空気圧の点検

- タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。タイヤ接地部のたわみが大きいときは、空気圧が不足しています。すみやかに調整するか、日産販売会社にご相談ください。扁平タイヤの空気圧はたわみ状態ではわかりにくいため、タイヤエアゲージを使用し点検してください。
- タイヤ空気圧は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。
- タイヤ空気圧は走行に伴い約 1 割程度上がることがあります。
- タイヤ空気圧は運転席ドア開口部に表示してあります。

■タイヤ摩耗の点検

- 摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が表れたら、タイヤを交換してください。



⚠ 注意

- タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。5 ～ 7 年を目安に必ず点検してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

タイヤ・ロードホイールを交換するとき

- タイヤを交換するときは、４輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

⚠ 注意

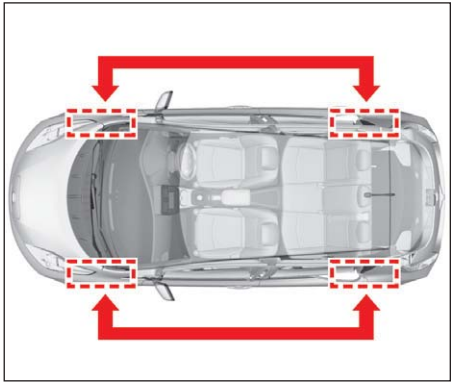
- 指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けないでください。不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤの交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミロードホイールには荷重制限がありますので、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。

タイヤの位置交換（ローテーション）

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約 5,000km ごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



⚠ 注意

- タイヤ間に著しい摩耗差があったり、空気圧が規定値より著しく異なると、車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

タイヤチェーンは必ず前 2 輪に装着してください。

タイヤチェーンについて

■装着の前に

- 安全に作業できる平坦な場所に停車してください。
- パーキングブレーキをかけ電源ポジションを OFF にします。さらに、非常点滅表示灯を点滅させ、必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）を置きます。

■装着のしかた

- タイヤチェーンは付属の取扱説明書に従って正しく装着してください。

⚠ 注意

- 不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものなどを使用すると、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

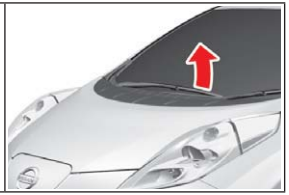
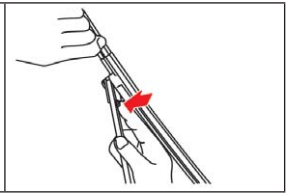
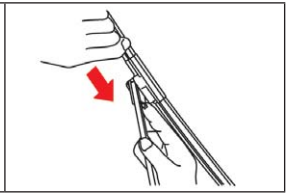
アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバーやアルミホイールに傷をつけるおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときはタイヤチェーンに付属の取扱説明書で指示された速度で走行してください。安全が損なわれたりタイヤチェーンが切れやすくなります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーブレードを交換するときは、次の手順に従ってください。

ワイパーブレードの交換のしかた

1	ワイパーブレードを持ち上げ、少し傾けます。	
2	ワイパーブレードのツメを押したままにします。	
3	ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。	
4	新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。	

⚠ 注意

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

知識

- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。
- ワイパーゴムの交換のしかたは、メンテナンスノートの「簡単なお手入れのしかた」をお読みください。

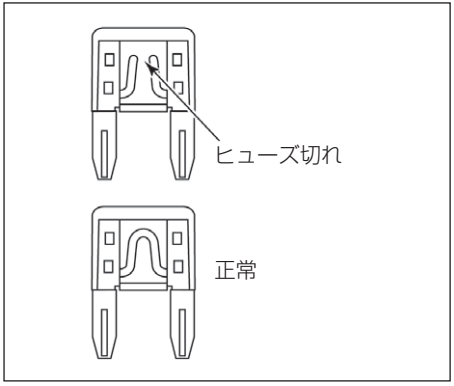
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ヒューズ

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

ヒューズを確認する前に

- ヒューズが切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。



■ヒューズボックスの位置

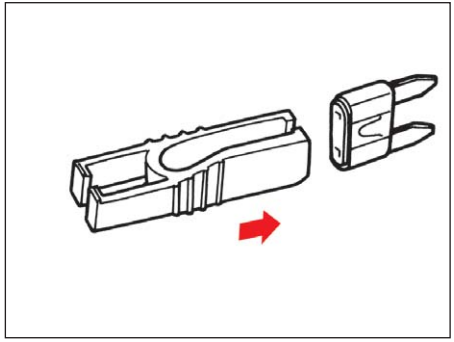
- ヒューズボックスはモータールーム（➔ P.235）とグローブボックス側面（➔ P.236）にあります。
- 各ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたの裏側に表示してあります。

⚠ 警告

- 規定容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使わないでください。電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

ヒューズ抜きについて

- グローブボックス側面のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。
- 電源ポジションを OFF にしてから、ヒューズ抜きをヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか確認します。



アドバイス

- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。

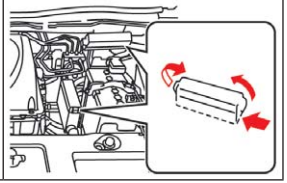
ヒューズ

モータールームのヒューズを点検・交換するときは、次の手順に従ってください。

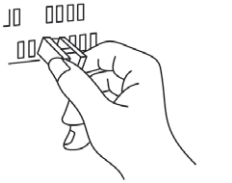
ヒューズの交換のしかた（モータールーム）

1 電源ポジションを OFF にし、フードを開けます。
➔フードの開閉…P.223

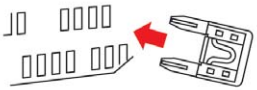
2 ツメを押しながら持ち上げ、ふたを外します。



3 グローブボックス側面のヒューズボックスにあるヒューズ抜きを使ってヒューズを取り外します。
➔ヒューズの交換のしかた（車室内）…P.236



4 新しいヒューズと交換します。
交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。



⚠ 警告

- 高電圧部位、サービスプラグ、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターに触れたり、取り外し、分解などは絶対に行わないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ヒューズ

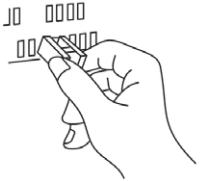
車室内のヒューズを点検・交換するときは、次の手順に従ってください。

ヒューズの交換のしかた（車室内）

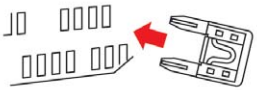
1 電源ポジションを OFF にします。

2 お手持ちの工具（マイナスドライバーなど）を①のスリットに差し込み、ヒューズボックスカバーを外します。

3 ヒューズ抜きでヒューズを取り外します。



4 新しいヒューズと交換します。交換したあとは、確実に差し込まれていることを確認してください。



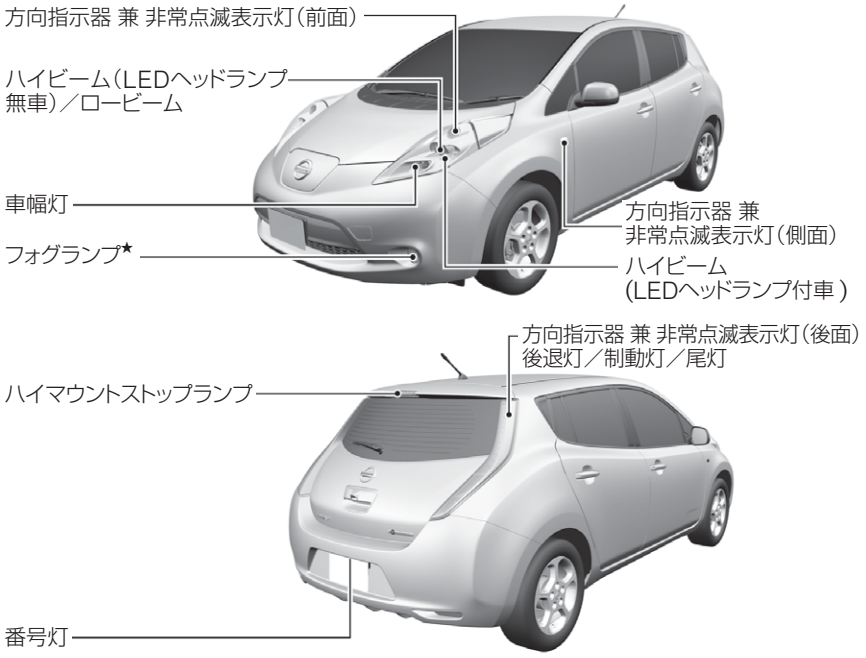
アドバイス

- お手持ちの工具を布などで覆い、傷をつけないように注意してください。

電球（バルブ）交換

外装ランプが点灯しないときは、バルブ切れが考えられます。
バルブの交換作業が不慣れな方や部品の破損などが心配な方は、日産販売会社にご相談ください。

各電球（バルブ）の位置



⚠ 注意

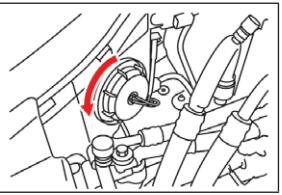
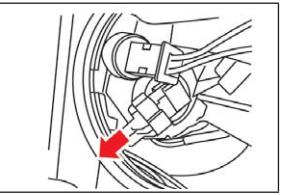
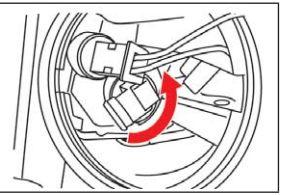
- バルブ交換は、モータールームやバルブが冷えた状態で行ってください。やけどをするおそれがあります。
- バルブ交換をするときは、軍手などを着用して作業してください。
- ステーなどの端で指や腕をケガしないように十分注意してください。

アドバイス

- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- バルブに油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。バルブの寿命が短くなったりバルブが破損するおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

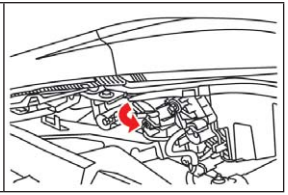
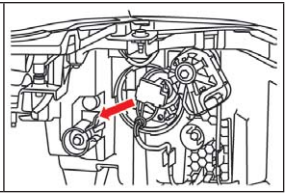
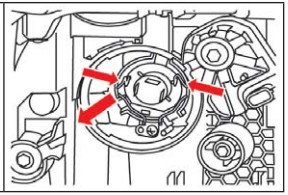
ハイビーム（LED ヘッドランプ付車）

1	カバーを取り外します。	
2	コネクターを取り外します。 （ツメを押しながら外します。）	
3	ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、バルブを交換します。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

⚠ 注意

- ハロゲンバルブは、バルブ内の圧力が高いため、破損するとガラスが飛び散ることがあります。取り扱いには十分注意してください。

ハイビーム／ロービーム（LED ヘッドランプ無車）

1	カバーを取り外します。	
2	コネクターを取り外します。 （ツメを押しながら外します。）	
3	リテーニングスプリングのロックを外し、バルブを交換します。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

⚠ 注意

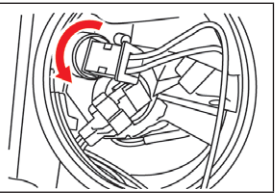
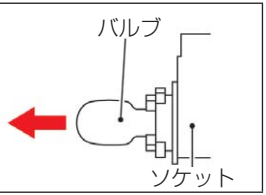
- ハロゲンバルブは、バルブ内の圧力が高いため、破損するとガラスが飛び散ることがあります。取り扱いには十分注意してください。

アドバイス

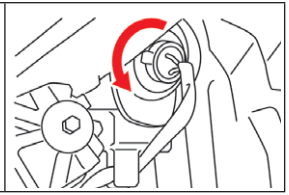
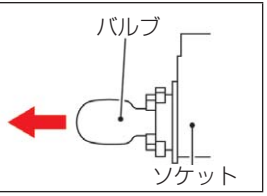
- リテーニングスプリングは必ず固定されたことを確認してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車幅灯

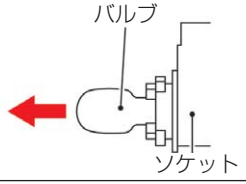
1	ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	
2	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）

1	ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	
2	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

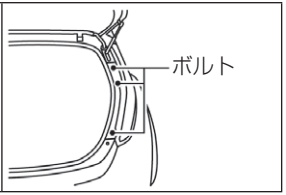
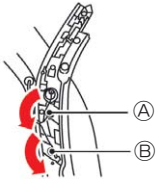
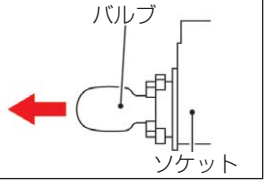
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）

1	左右のスライドする方向に押しながらカバーを引き抜きます。	
2	ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	
3	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

アドバイス

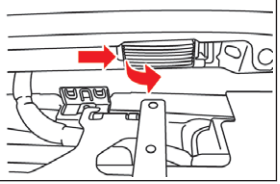
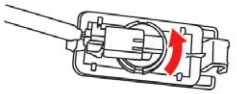
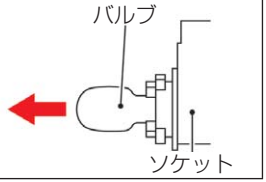
- 無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- ソケットをテープなどで車体に貼り付けてバルブを交換すると、フェンダー内部に落ちるのを防ぐことができます。

方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）／後退灯

1	バックドアを開け、お手持ちの工具でボルトを外します。	
2	カバーをまっすぐ後方に引いて取り外します。	
3	交換したいバルブのソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。 Ⓐ：方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面） Ⓑ：後退灯	
4	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

番号灯

1	カバーを右側に押しながら下側に引き抜きます。	
2	ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	
3	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

その他の電球（バルブ）

以下の電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

- ロービーム（LED ヘッドランプ付車）
- 制動灯／尾灯（LED）
- ハイマウントストップランプ（LED）
- フォグランプ★

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

洗車のしかた

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ほこり、汚れがひどいとき

■水洗いするとき

①水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。

②水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。

③はん点が残らないように水をふき取ります。

⚠ 注意

- 下回りを洗うときはケガをしないように注意してください。

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。
- 洗車するときは、モータールーム内に水をかけないでください。電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使わないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

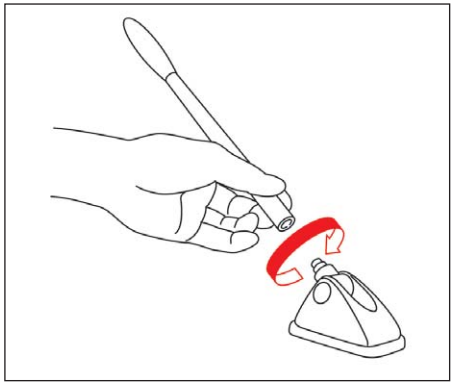
洗車のしかた

■洗車機を使うとき

- 洗車機で洗車するときは、アンテナを外してください。
- 自動洗車機を使用するときは、ドアミラー（➔P.78）を格納してください。
- 高圧（コイン）洗車機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。

■アンテナの外しかた

- アンテナを取り外すときは、アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回して取り外します。
- 取り付けるときは、アンテナの根元を持ち、矢印と逆方向に回し、確実に締め付けます。



アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- 自動洗車機で洗車すると、リヤワイパーを破損するおそれがあります。
- 洗車機の種類によってはスポイラーが引っ掛かり、洗車できないことがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

洗車のしかた

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

ワックスをかけるとき

- ワックスがけは１か月に１回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

■ワックスのかけかた

①塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。

②塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

■ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスを使ってください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

ソーラーセルモジュール*のお手入れ

- 正常に機能させるため、定期的に汚れを落としてください。お手入れのしかたは、ほかの外装部品と同じです。
- から拭きやコンパウンド入りのワックスをかけないでください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。

アルミロードホイール★のお手入れ

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使わない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
  - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
  - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使わない

軽い補修のしかた

- 塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

内装のお手入れ

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。

フロアカーペット…P.188

布、ビニールレザーの汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

本革シートのお手入れ★

■通常のお手入れ

- ガーゼなど柔らかい布でふきます。

■水溶性の汚れを取るとき

- 柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

■油性の汚れを取るとき

①ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度 2 ～ 3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。

②真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。

③乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

⚠ 注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。
- 本革シートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- 本革シートが水などでぬれたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

知識

- 本革シートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日産販売会社にご相談ください。

メーター表面の汚れ取り

- 柔らかい布を真水に浸し、固くしぼってからふき取ります。

アドバイス

- 乾いた布やウエットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル※1	遊び	3～11mm
	床板とのすき間 走行可能状態で約 196N（20kg）で踏んだとき	98mm 以上
パーキングブレーキ	踏みしろ 走行可能状態で約 196N（20kg）で踏んだとき	6～7 ノッチ

交換油脂類

項目	規定量（ ℓ ）※2	指定油脂（規格）
減速機オイル	1.4	日産純正マチックフルード S ※3
ブレーキフルード	–	日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）
冷却水	5.3 ※4	日産純正スーパーロングライフクーラント ※5
ウォッシャー液	2.5	日産純正ウインドウォッシャー液 ● 外気温に応じて濃度を調節してください。

※1：ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの高さの調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。
※2：規定量は目安です。
※3：必ず日産純正マチックフルード S を使用してください。日産純正マチックフルード S 以外のフルードを使用すると減速機が損傷するおそれがあります。
※4：リザーバータンクの MAX レベル容量（0.5 ℓ）を含みます。
※5：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水は、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

車載充電システム（普通充電）

項目	内容
入力電圧	AC 100V ～ 240V
定格周波数	50Hz ／ 60Hz
最大定格電流	18A
最大消費電力	3.6kVA
電源システム	TN-S システム
EVSE 漏電遮断器の検知電流（日産純正 EVSE との組み合わせ）	15mA
保護クラス	クラス Ⅰ EV
EV 充電モード／接続タイプ	Mode 2 ／ Case B（普通充電、日産純正 EVSE との組み合わせ） Mode 3 ／ Case B/C（普通充電、公共充電スタンドなど） Mode 4 ／ Case C（急速充電）
施工要求（短絡保護電流、保護機器の情報）	過電流、過電圧対策手段は、国内の法規、基準に従うことが必要です。家屋、ビルの配線に適切な過電流保護装置を必ず設置してください。
冷却システム	車両の冷却システムを使用
IP 等級	IP55：車両走行状態の充電ポート IP44：充電中の EVSE と充電ポート結合部（日産純正 EVSE との組み合わせ）
動作温度	-35℃～ 45℃
保管温度	-40℃～ 80℃
適合規格	SAE J1772:2010 EN61851-1:2010 EN61000-6-1:2007 EN61851-21:2002 EN61000-6-3:2007 IEC61851-1:2010 IEC61851-21:2001 CE
アダプタ	充電ポート部にアダプタを使用しないでください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

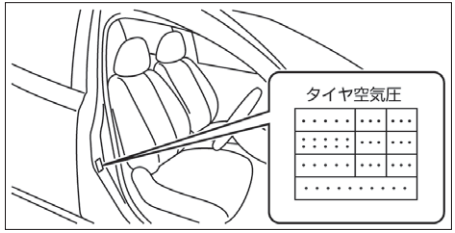
電球（バルブ）の容量

電球（バルブ）			容量（V-W）	バルブタイプ
前照灯（ヘッドランプ）	LED ヘッドランプ付車	ロービーム	–	LED
		ハイビーム	12-65	H9
	LED ヘッドランプ無車		12-60 ／ 55	H4
前部霧灯（フォグランプ）★			12-55	H11
車幅灯			12-5	W5W
番号灯			12-5	W5W
制動灯／尾灯			–	LED
ハイマウントストップランプ			–	LED
後退灯			12-16	W16W
方向指示器 兼 非常点滅表示灯		前面、後面	12-21（アンバー）	WY21W
		側面	12-5（アンバー）	WY5W

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
205/55R16	16 × 6.5JJ	114.3mm（5 穴）	40mm
205/55R16	16 × 6.5J		40mm
215/50R17	17 × 6.5J		45mm

※タイヤの空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。



車両データの記録・蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターは EDR（イベントデータレコーダ）機能を備えています。
以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、EDR で車両が衝突したときの車両データを記録・蓄積しています。

■SRS エアバッグシステム

SRS エアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、EDR に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。
なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

知識

- EDR（イベントデータレコーダ）は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、下記車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報
- バッテリー消費電力などの電力制御情報

車両状態記録機能

車両状態記録機能は電気自動車としての品質維持を目的として、車両の運行状態を常に記録・蓄積しています。
車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

知識

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、EDR に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。
なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することがありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合